

# 洗脑物



——始めまして。この映像を見ていると言う事は、どうやら、同封したカタログに興味を抱いて下さった、と言う事ですね？だとすればアナタは、もう立派な我々にとって大切なお客様でございます。

尤もこの映像とカタログは、真に我々の商品を必要とする方にだけ送らせていただいておりますが……。

さて、この限定サイトを観れるのは今は、一度だけ……再度観るには、何かの商品を購入する必要があります。

たった一度、カタログから欲しい商品を選び、そしてその商品の使用した映像をお選びください。きっと望むものをご覧になれるはず……。

……洗脳マシン、でよろしいですね？では、お客様の選  
び下さった商品の概要を説明いたします。  
この商品【洗脳マシン】ですが、あえて安直、そしてチープ  
な作りしております。しかしその効果、性能はその名の  
通り、フィクションの世界であるような完璧で絶対的な洗  
脳を可能にした商品です。対象は、人は勿論ある程度の知  
性を持つ生物であれば簡単に洗脳する事が出来ます。



使用方法は、いたって簡単。正面タッチパネルに洗脳した  
い対象の名前を入れるだけ。同姓同名を心配必要は、あり  
ません。アナタが洗脳したい相手を思い浮かべれば、自動  
的に対象外の人間は、外されます。また、広域洗脳指定も可  
能であり、学校、会社も学校名などを入力すればOK。さら  
にお住いの地域も洗脳可能です。



一言で言ってしまうえば「自分の住む町を好きにできる」、その一言に尽きます。

勿論、既に多くのユーザーの方がおりアナタが知らないだけで多く場所でのこのマシンは使用されています。しかしご安心下さい、アナタはお客様です。洗脳対象にされないよう我々が洗脳非対称としております。



さあ、マシンの使用説明など、どうでもいい、と御思いと思えます。お待たせしました。それでは、このマシンを実際に使用したユーザーから提供して頂いた映像をお見せ致します。

きつと、アナタもマシンを購入したくなるはずです——

こちらは、今回紹介する洗脳マシンユーザーの一人が洗脳した女性の一人です。凛々しい容姿でクールな雰囲気がありますね。

ユーザーの方が片思いをしていたらしいのですが、最近彼氏ができたようで、気に食わなかったユーザーが洗脳して玩具にしたようです。



普段は凛々しい彼女ですが、既に洗脳済み。ユーザーの鬱憤を晴らす玩具としての日々を送っています。しかし、それが許される、可能なのが洗脳マシンなのですっ！

これは、別の時の姿の画像ですね。ユーザーが用意したス  
ケベ衣装に身を包んでいます。このユーザーが住む地域  
がマシンの効果で洗脳設定地域になっており、住む住人  
全てが洗脳済みなので、この格好で出歩いても誰も疑問  
に思いません。外部からの人間が来ても瞬時に洗脳され  
ます。洗脳を防ぐには、別売りのアンチ洗脳マシンが必要  
となります。



さて、彼女ですが今の状況に疑問を抱く事はありません。  
それどころか、ユーザーの設定した洗脳行動を必ずとる  
雌奴隷と化しています。衣装は、スケベですが、今の所、  
彼女は、凛々しい表情のままですね。  
そんな彼女がどう堕ちているのか？今の彼女の日常を紹  
介しましょう。



「おはよう、馬鹿雌www」(音声は加工しております)  
「おはよう、〇〇君」

ご覧ください。ユーザーが挨拶をした瞬間、彼女がその場で股を開いてしゃがみました。エロ蹲踞ってやつですね。勿論ユーザー設定の行動です。



朝昼晩、いつであろうとユーザーと出会ったら、このポーズを取る様に設定されているようですね。馬鹿雌と言われた事にも、まるで気にしていないですね。大変いい趣味だと私は思います、私も好きですよこのポーズ。

「ん…………っ♡あう……………」

今更に催眠が進みました。催眠状態になったようです。催眠モードは、催眠状態に加えて心身ともに強制発情させる設定です。催眠設定は細かいレベルに分かれており、好きな発情レベルでのプレイが可能です。このユーザーは、最高レベルでの遊びが気に入っているようです。



ただ、最高レベルの催眠は、更に理性が吹き飛ぶので、利用は計画的にお願いします。具体的には、次の映像が参考になります。



「お、おほ……っ!!♥んおっ!!♥ほほおっっ!!?♥」

今一気に発情したので奇声を上げていますね。鼻水も涎垂れ流して実に無様で滑稽な表情です。しかしユーザーは、この姿の彼女を見るのが最近の楽しみだそうです。

「おうっあ、挨拶……♥んっほおん♥腰、腰ふり挨拶う♥」



更に今から次の洗脳行動に移りますね。羞恥も理性も常識も失った雌の姿をお楽しみください。





いやあく、実に無様ですね。始め凜とした表情は、多少なり保っていました。が、まあこうなりますよね(笑)。  
このユーザー以外の方々の洗脳マシン使用方法は、勿論様々ではありますが態々洗脳なんて手段をとるので、こう言った極めて非日常的な、常識の壊れた奴隷を作る方は、決して少なくありません。もしも、「**自分の性癖は歪んでいる**」や「**いくら洗脳できても、恥ずかしい趣味だし**」などと言う悩みがある方。そんな悩みは一切捨てましょう！



このユーザーの様に鬱憤を晴らすためだけに、相手の全てをぶち壊す、それが可能なのが洗脳マシン！性癖の歪み？マシンを使えば、そんな歪み気にする必要ありません！むしろ自分以外が歪んでいると思ってもいいのですから!!  
では、それでも不安な方のために、更にこのユーザーから提供していただいた画像と映像をお見せいたします。



突然のプリケツどアップ。失礼しました(笑)。これはまた別の時の彼女です。服こそ指定制服ですが、とっているポーズがあまりにも無様と言いますか、マヌケですね。これはユーザーが指定した「何処だろうと、放屁感を感じたらふちまける」と言う洗脳設定で、ようは、オナラをしろと言う指示ですね。



オナラをしたいと思ったら、このように彼女は、場所を選ばずに腰をしゃがめてスカートを捲り上げて放屁態勢になります。

そしてパンツをずらすと……開きました。いや、これは実に広がりきったアナルですね。もう洋ピンで見るようなアナルです。ただユーザ―は、彼女に対して直接の性的行為は、あまり行っていないとの事。ですのでこれは、度重なる放屁行為とアナルプラグなどでの調教成果でしょう。



完全にぽっかり空いた穴と化したアナルが引くついております。次は、より生々しい音声の流れ始めますので、一応ご注意ください。

「ほっ♥おっほっ!?♥で、出るっ!!直腸待機ッ♥  
!!へ、へっ屁えッ♥!!御学友の皆様ごめん  
ちやいっ♥!!ひ〇きは、今から場所をはばから  
ずにお放屁いたしまあッ♥!!昨日の夕食  
は、芋イモお芋♥かなあッ臭いですが、お許し  
下さい♥こ、これ日課なんですッ♥」



「ふひひっwww戦〇ケ〇、しっかり動画で記録  
してやるからなwww」

「は、はぁい♥じっくり私のお・放・屁♥お聞き  
下さいませえッ……っ♥」

美少女(笑)の放屁。それでは、ご堪能下さい。







「ほらよ、よく似合ってるぜwww」  
「あ、あぁーん♥落書き感謝でえゝすっ♥」

あっはっは!!失礼しました、思わず笑ってしまいました(笑)。どうやら体に落書きをされる事は、とても喜ばしい事と認識しているようですね。



きっと今までこれからも、書いては消してを繰り返し、新しい卑猥な言葉の落書きをされ続けるの  
でしょうね。

もっとも彼女にとって、それはとても幸せな事なの  
でしょうけど(笑)。



さて、実はこのユーザーはもう何人か洗脳雌奴隷を作っています。と言うのも、例のS・Hさんの彼氏(笑)さんは、非常におモテになるそうでそれが気に食わなかったようですね。なので、取り巻きの女性達は、基本ユーザーの玩具にされています。中でもS・Hさんに次いで気に入られている奴隷がいます。



その奴隷を続けて紹介いたしましょう。

こちらが二人目の洗脳奴隷であるH・Tさんです。S・Hさんと比べて豊満な肉体が目立つ彼女ですが、彼氏(笑)さんの彼女候補として実はS・Hさんより優位だった時期もあるとか。まあそんな事は、最早彼女にも彼氏(笑)さんにも、関係のない事です(笑)。



見た通りの秀才タイプである彼女は、クラスの委員長でもある。ある一方で、そこまた如何にもと言うタイプです。しかし、洗脳を施された今彼女は、ユーザーの玩具。委員長であるとうと、扱いはS・Hさんと変わる事はないのです。ですので当然……。

こんな格好をさせられるわけですね(笑)。当然彼女が反抗する事は、一切ありません。最近ではこの格好で授業を受けクラスや教師のチンコを全員起立(笑)させて大変だそうです。しかもあのS・Hさんも同じクラスなので二人揃ってスケベ衣装では、確かに男子諸君にとっては、つらい時間でしょうね。



また更に……。





体への落書き行為も当然行われると言うわけです。  
大きな胸は、実に落書きのしがいがあるとユーザーは、満足そうに話しておりました。  
さて、彼女も催眠奴隷である以上S・Hさんの様な行動をとります。せっかくなので彼女の惨めな姿も見てみる事にしましょう。

「おっ？羽○じゃんwwwほら、お前も挨拶しろよwww」  
「あ、うん……」

彼女もユーザーに出会うと場所を選ぶ事無くその場がに股となりしやがみます。多少言葉に覇気が無いのは、遊びの際に催淫レベルを高くしたせいでしょう。しかし催淫状態へと入ればどうせ壊れてしまうのでユーザーの使用法としては、問題は無いようですね。



「バカ、服着てんじゃーよ、脱いでから挨拶、だろwww」  
「あ、そうね……ごめんね」

やはり疑う事無く服を脱ぎ始めました。





「次やる事は、わかっているな？」

「勿論……このまま無様晒して挨拶だよな？」

「そーそーwwwじゃあ、挨拶開始www」

「う、うん」

ユーザーが命じると、彼女は徐々に腰を前後させます。先程のS・Hさんもそうですが、見ていて実に愉快ですね。



「挨拶……腰、ふって……挨拶」

「はいはい、そうそうその調子www」

ユーザーは、彼女の動きに合わせて手拍子を始めました。すると徐々に彼女の方が手拍子に腰の動きを合わせだします。

「おっ……ほっほっ♡こ、腰振り挨拶……っ♡!!」  
「そっそっ、そのままwww」

軽く上下させただけで、彼女の豊富な胸がブルンブルンと弾みます。すごいですね、グラビアアイドルでもそっそっいいない爆乳ですよ。

「ほれほれ、もっとペースアップだwww!!」



パンパンッ♪パンパンッ♪  
「おっほっ♡腰振って挨拶……♡お胸プルプルっ……♡  
ほっほっ♡挨拶……いひっ♡」

白目をむき出して、どうやら意識が催淫MAXになるようです。



「おっほお〜〜〜んっ♡腰ふり全開へっ〜へ〜お〜んっ♡  
今日もがに股絶好調ッ♡翼の腰ふり♡挨拶♡♡覧に下  
さあい♡」

「よしよし、やりやできんじゃんかwww」

「はいい〜♡私出来てますかあ〜♡？腰ふり挨拶う♡♡満足頂けましたかあ♡？」

「ああ、満足満足……まあ俺もう飽きたから先行くわ、暫くそのまま他の奴等に挨拶してなwww」



「かしかし、かしこまりマンコオ〜♡皆様、おはよう〜ざい  
マスカキ♡今日もどスケベ委員長の羽〇翼♡痴態晒して  
大歓喜でえ〜すっ♡おっぱいブルブルお見苦しくってご  
めんなさあ〜い♡おっほっ♡なんなら揉んでもOKフリ  
ーオッパイパイよんっ♡うひよひよっ♡その男子、一発  
シコッてかなあ〜い？♡」





こちらにも突然の尻w w w。うーん、張りがあって  
且つムッチリとしたスケベな尻ですね。  
S・Hさん同様の尻を差し出したままのオマヌ  
ケポーズが決まっていますw w w。  
ただ今回は、ユーザー不在の時の映像です。映像  
は、彼女が態々カメラをセットして録画したよ  
うですね。勿論ユーザーの命令です。



きつと後で渡して楽しんでもらおうと思ってい  
るのでしよう。では、彼女のその頑張る姿を我々  
も楽しませてもらいましょうかw w w。

「あっ♥突然すみません。ちよつと私、ここで屁をこかせていただきます♥はい、屁です♥オナラです♥お放屁です♥何故って……それは、命令されたからです。はい、〇〇君にそう言われて喜んでブーブー所かまわず屁えこいてます♥それに気持ちいいし、皆さん面白がってくれますから♥」



「おっふう♥あ、ごめんなさい、もうケツ穴が開いちゃいました♥すっかり放屁癖ついた締まりの無いグロ穴引くつかせてごめんなさい♥急いでオナラぶっ放しますからあ♥もし良かったらご覧になっていってくださいね♥」



「おほおっ♡!?あう♡!!で、出てきました♡!!屁  
尻です♡あぁ〜ん♡出したい出したい〜ん♡  
け、けどまだ我慢うん……♡もっとギリギリま  
で我慢してえ♡思いつきりい♡ド下品な放屁記  
録しないとぉ♡おほおっ♡!!ほっほおお〜  
〜んっ♡!?」



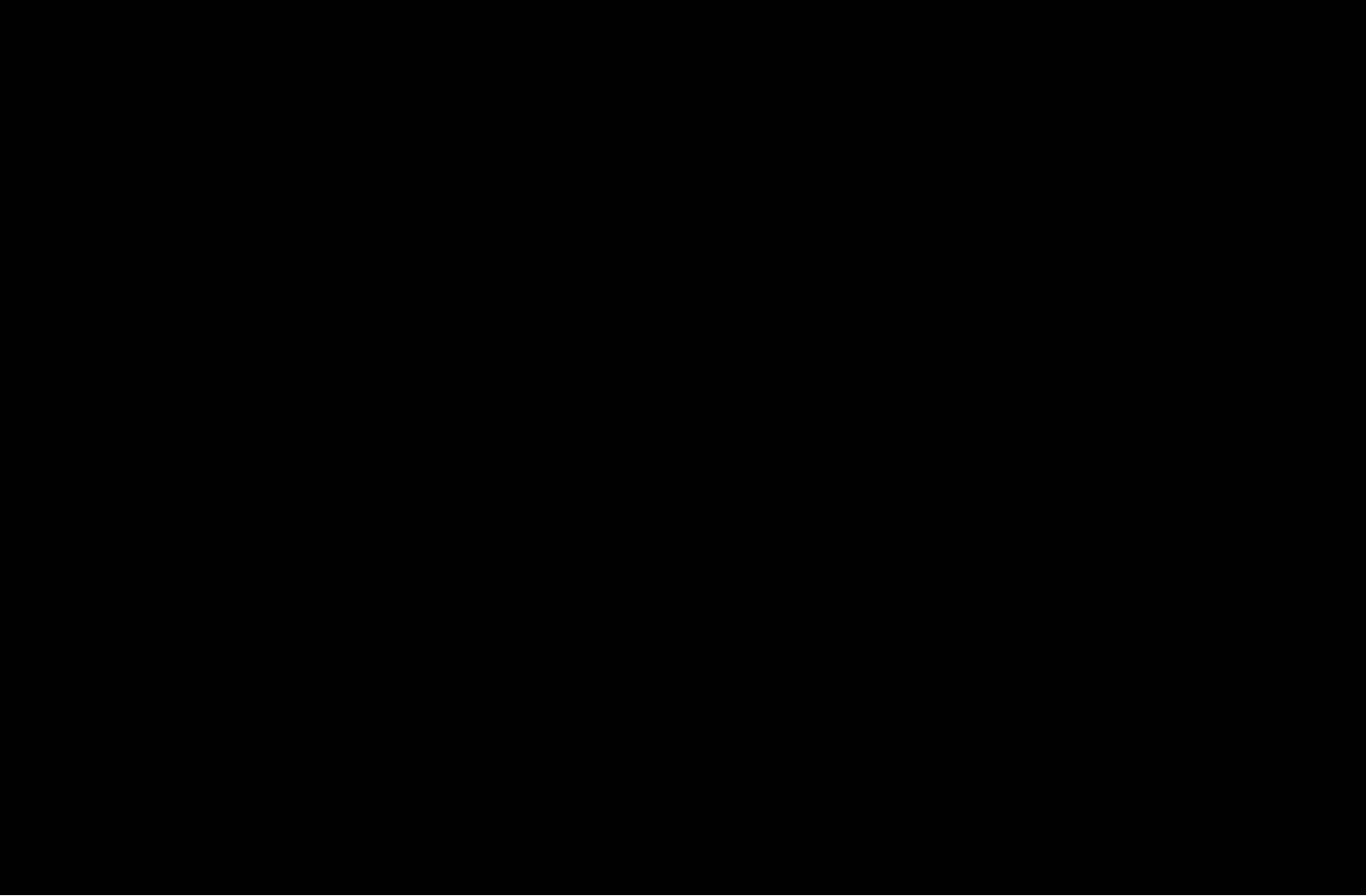
「あひっ♡!!あ、無理限界……♡ツ♡出ちゃう、あ  
あもつと溜めたいのにい♡無理、でますオナラ  
出ますう♡堪え性の無いゆるゆるなあ♡羽○ア  
ナルですマンコでえ〜す♡うひっひい〜んっ♡  
!?で、でわ……♡羽○翼のぶっ♡き放屁い♡」覽  
下さぁ〜い……♡おひっ♡出……♡っ♡!?」











——お久しぶりです。この「特別サイト」へ再ログインをしたと言う事は、商品を購入していたのだと言う事ですね。ありがとうございます。さて、我々の商品ユーザーと成ったと言う事であり、今後ともこのサイトで多くの映像を観覧する事が出来ます。勿論、商品の使用だけで満足しているのであれば、無理をして見る必要はありません。洗脳マシン、はいその商品を使用するユーザーの映像は、前の様にご覧になれます。

またお客様が以前「ご覧になったユーザーの使用映像ですが、新しい物が更新されております。ご覧になれますか？」

——YES

かしこまりました。それでは、映像をお楽しみください。



——ここは、あの洗脳対象S・Hさん達が住む某所、そのさらに何処。彼女達を洗脳していたあのユーザーは、彼女達での遊びに飽き、既に彼女達を捨てた。捨てられた彼女達……今は、このとある場所、で使われていた。



使われている——と言うのは、ユーザーにはない。

女性の唇を模した艶めかしいオブジェが壁に並んでいる。  
そして、そのオブジェの上には、申し訳程度のモザイクをかけられた少女達の顔写真があった。最初から隠す気も無い、間違いなくあの少女達だった。モザイクは、演出なのだ。



インテリアのオブジェ出ないのも説明するまでも無い。ここは、欲望の渦巻く場所。





普段彼女達は、この穴の向こうで自分達を利用する男が来るのを待ちつづける。捨てられてから時間が経ち今まで何人の男に使われたかわからない。

「はあ……お、お待たせしましたあ❤️お次の方どうぞお……」

だが最後の洗脳を受けた彼女は、それが全てだった。



「ど、どうぞ❤️お好きな様にお使ってください……」

誰かが利用し、終われば並んで待っていた別の男が入れ替わる。多い日は、百人以上は相手をする。









「はぁ~~~~いっ♡」

男に言われるがままに彼女は、口をパツクリと開き舌を垂らした。何人ものちんこを啜えた口は、マンコとは別の性器として出来上がっていた。

「性処理便女戦○ケ○ひ○ぎのロマンコオ♡どうぞ思う存分ご利用くださぁいっ♡」



滴る涎を潤滑油にして、男は彼女の口へと一気に自分のちんこを差し込んだ。

ズッポオオオオオッ!!

「ふっ」お……ッ♥!?!」

差し込まれた巨大なちんこは、一気に彼女の喉奥へと達した。ゴリゴリと喉を削る様にして、ちんこが侵入して来るのを彼女は感じた。



「ふうむうっ♥!!んっぐ、おっ」お♥んもおおおーッ♥!!」

容赦なく突き込まれてくるちんこに呻くS・H。だが決してちんこを離そうとはしない。

「ふっ♡うおお……っ♡」

それどころか彼女は、より深く長く男のちんこを啜えようとする。息をする事もままならないにも拘わらず、徐々にその唇を伸ばしていく。

「ふっふっふっ♡♡ふっふっ♡♡!!」



口元と表情は見ないが、彼女が自分の物を更に啜えようとするのがわかり男は、ゲラゲラと笑った。そんなちんこが美味いか、と。その言葉に彼女は、言葉ではなく下品なフェラで応えた。



「ゴブツ♥ジュブルツ♥!!」ジュブルブルツ♥  
!!ジュルルウウウツ♥!!」

伸びきった唇、そして顔を激しく前後させ唇は、  
伸びて縮んでを繰り返す。ひよつとこ顔のパキユ  
ームフェラ。整った顔を躊躇いなく台無しにし  
た不細工顔で彼女は、必至に奉仕をする。



(あー最高、さいっこおツ♥!!うまっうつまあ♥  
ちんこうんまあっ♥!!不細工顔でひよつとこフ  
エラ♥欲望全開の恥知らずターイムツ♥ちんこ  
ジュポジュポ、ナメナメするだけで幸せなのよ  
んっ♥!!ちんこのためなら、なんだってしち  
やうものお♥だっって便女だもっくっんっ♥)



「ほお……♡」

射精が終わり引き抜かれるちんこ。出された精液の殆どを飲み切った彼女も、流石に白目をむいて息も荒い。

「♡利用……ありがとう♡ございましたあ♡」



便女の利用は、一人一回。例え時間内でも一度射精すれば交代になる。また使いたい場合は、再度交代を待つしかない。だが、壁の向こうの少女を汚した優越感に浸り、男は去った。

「またの♡利用……お待ちしておりますあ♡す♡」



一方、隣のH・T。彼女の元にも何人もの男が現れる。

「んふっ♡ど、どうも……ようこそいらっしやいました♡  
お便女の羽O翼でえす♡けど、名前なんて忘れてかまいま  
せくん♡だって私い♡ただの便女だからあ♡」

S・Hと同じように媚びた口調で男を迎えるH・T。



「この利用は、初めてですかあ？大丈夫、なあくんにも  
気にする必要ありません♡だって私は、公衆便女♡小便  
に、ウンコ出す時と同じ♡何にも気にせず、使って、大丈夫  
でえ〜す♡」

穴の開いた壁、唇オブジェの奥に見える艶めかしい唇、そ  
れだけが見えた光景に、男のちんこは、みるみる勃起した。

「だあくかあくらあく♥私のお口♥それもただの便女のパーティー♥おちんぽ様がご利用する性処理道具なんですう♥」  
彼女が唇をすぼめてそこから舌をべロべロと動かし出した。S・Hと同様に、まるで別の生き物のように。

「うふう♥いやらしい舌ですよねえ♥もうおちんぽ様の味を覚えちゃってえ♥涎もダラダラ止まらないんですう♥」



男が「ここが初めてと言うのは、嘘ではないようで、モザイクがあるとは言え、清楚そうな少女がこんな卑猥な言葉を話し、下品な行為を行うとは、信じられない」と言う表情だった。

「あっはあ♥勃起い♥もう絶対勃起してるう♥ビンビンに勃起してますでしょお〜♥」









ズッポオオオオオッ!!

「んっふうううう……ッ♥!?!」

自製の利かなくなった男は、容赦なく彼女の口、そして喉奥へとちんこを挿入する。もう彼女を人と思わず便女なのだと考える。



「おふっ♥!!んっうううううんっ♥!!ぶうっ♥  
!!ふんぐううっ♥!!」

男に応える様に苦しそうにしながらも彼女は、ちんこを啜え続ける。

むしろ、便女をしていると普通のフェラチオをする方が少ない。今の様なディープ・スロートが一般的であった。

「ふむっ♥んむうっ♥!!うぐうっ♥」



喉の限界ギリギリまでちんこを啜えようとする。そして、これ以上は入らない所まで来ると、今度は激しい顔の前後運動をする。

「んっむうっ♥!!」



「ゴジュブウツ♡!!ジュブツ♡ふっぐっ♡!!ジュルブツ♡プグ……ッ♡ブウツ♡!!んっむっ♡んっ♡!!」

急激なバキューム。S・Hと同様に、最早彼女も、立派な便女、恥じらいも無く唇を伸ばし顔を前後させてちんこへと激しく吸い付いた。



(ちんぽおろろろっ♡あ、あ、好き好き♡おちんぼ様大好き♡感じて下さい私の口マンコ♡ペロペロ舐めます♡ズポズポ吸います♡おちんぼ様のための便女♡おちんぼ様の性処理道具の便女♡私のおちんぼ様への愛感じてください♡!!)



「おほ……っ♥ゲフッ♥」

殆どの精液を飲み込むと、鼻提灯を膨らましなが  
ら彼女は、最高の、御馳走、を貰えた事、自分を  
使用して貰えた事の幸福感に包まれていた

「さ、最高でしたあ……♥」



「貴方のちんこ♥それにザーメン♥とっても濃  
くて雄臭くって♥ま、また来てくださいねえ♥  
ウゲ、ゲエツ♥ゲエエエ〜ッブウツ♥!!」  
ゲップで挨拶を締めくくる。男女の別れとして  
は、下品極まる。だが、男は再び現れるだろう。



その後も、何度も何度も壁の穴から差し込まれるちんこを彼女達は、喜び啜え、嘗め回す。啜える度に感じる多幸福感を得る為に、男に気に入られるために。



浮浪者の不潔極まるもの、顎が外れる程のもの、明らかに未成年のもの、穴に差し込まれるちんこであれば何でも舐め続けた。

それが便女である彼女達の全てだった。それ以外に自分に価値は無い、そう信じ思い込み、それ以外の考えなど起こる事は、もう一生無いのだ。口に入れるのは、殆どが男達の汚物となった。精液、小便、時には大便すら食わされた。だが、それも喜び飲み込んだ。



寝る時間よりも、ちんこを口に含む時間の方が長くなり、それが更に長く続くようになる。だがこの外の状況もわからぬ欲望の巣窟では、時間の意味など無くなっていた。

だがいつまでも口だけでここの利用者達が満足するとは、便女を管理する者達も考えてはいない。僅かに目線を消された顔写真も「口だけでなく、この女を犯したい」と言う欲求を高めるための小道具だ。



そして、その道具は、効果観面であった。





便女最後の『穴』は、尻とマンコだ。それを使われる事で彼女達は、穴と言う穴を全て男に差し出す事になる。

本来なら愛すべき男に捧げるべき処女は、既に失われている。愛も何もない性処理のための穴、それが彼女達に求められるもの。



それであっても常識全てを壊された彼女達は、喜び差し出すのだ。

唇のオブジェとは違うフレームに挟まれているのは、尻であった。下着も無いありのままの尻がそこにある。口奉仕の便女から尻穴マンコ奉仕の便所へと移されたあのS・H達である。一度ここに固定されれば一日は、確実にそのまままで放置される。



その後は、口奉仕の時と変わる事は無い。ただひたすらにここを訪れる男達に使われ続ける。



発情しきっている二人の尻は、何もしなくてもピクピクとひくつき、またプルプルと震えている。マンコも濡れて何時でも男を迎える事が出来る。



彼女達と言葉を交わす事は、完全に壁に遮られているために出来ない。だから男達は、一切の躊躇なく彼女達を使用する。

「おっっっ♥!?おほおおおっ♥!!」

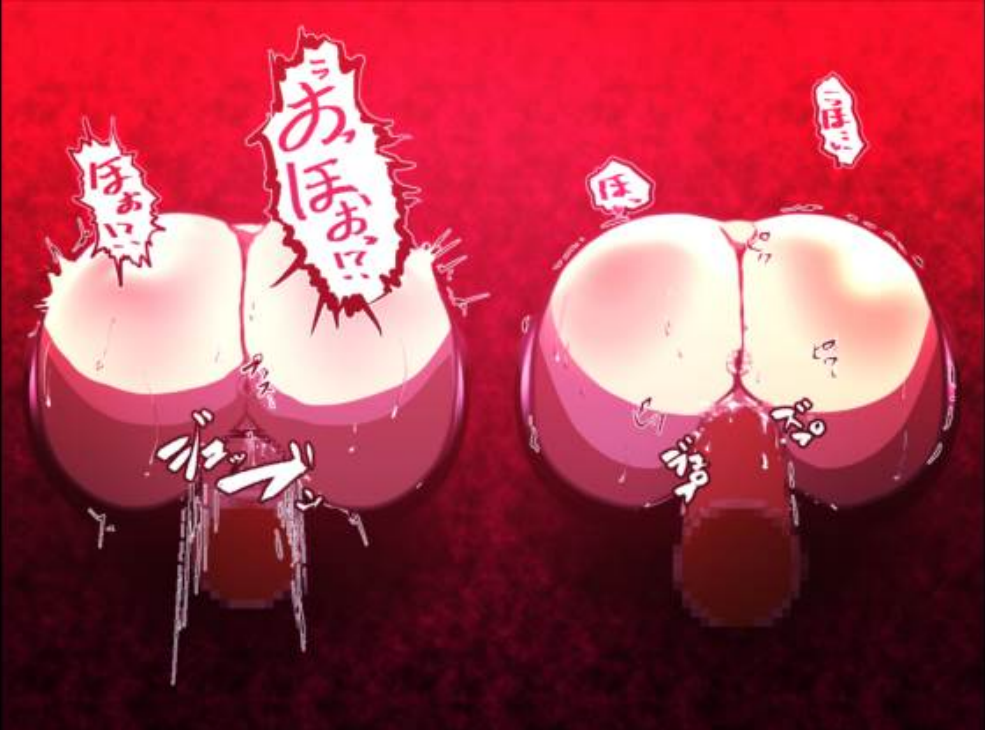
右の尻、S・Hのマンコにちんこが行き成り差し込まれた。大きく声を上げた彼女の声が壁越しでも聞こえて来た。どんなマヌケな顔をしているかは、容易に想像できる。



そんな彼女の声に反応した隣のH・Tの尻が驚いたのかビクリと跳ねた。それを見て彼女を笑った男は使おうとした男は笑った。

「うほっ♥!?!のほおおっ♥!!」

続けてH・Tのマンコにちんこが突き込まれた。  
S・H同様大きくマヌケな声を上げた。  
二人ともちんこを入れられた勢いで尻が緩み出しケツの菊門がピク付き広がりました。



ちんこを入れてしまえば後は、やる事は一つであつた。それを彼女達も期待している。



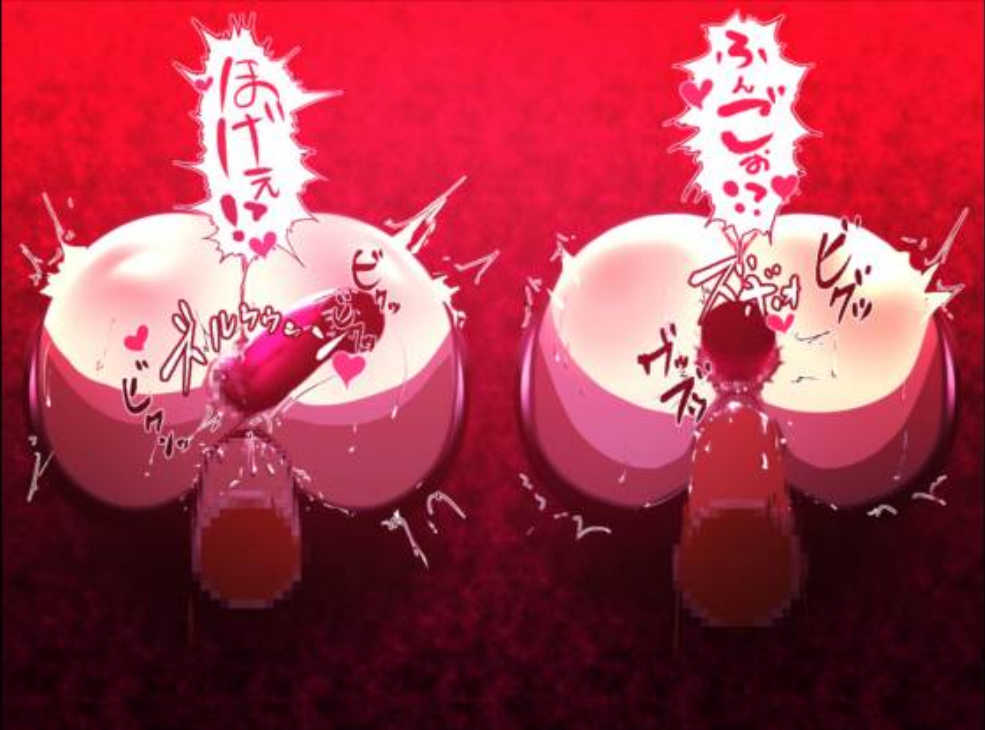
「んおっ♡!!おほおおおっ♡!?ちんこズッポ  
ズポきたあゝんっ♡!!ぶほっ♡ほほおゝっ♡!!  
マンコオ♡ズボズボぎもちゝゝゝっ♡!!」  
「んんっひよおおっ♡!!ちんこありがとうござ  
いますううっ♡!!便女マンコどんどん犯しくだ  
さいませえゝっ♡!!おひよほおゝゝっ♡!?!」



ちんこが二度三度スライドされれば彼女達は、  
こちらまで聞こえる程の大声で嬌声を上げ出し  
卑猥な言葉を並べ、快樂から人と思えぬ奇声ま  
でも上げる。

「ふん」おっ♡!?!  
「ほげえ♡!?!」

男達は、尻穴へ突然ティルドを突き込んだ。それぞれに短い物、長い物を、だが両方ともアナルへ入れるには、太く凶悪な物である。言ってしまえば便女の反応を楽しむための遊びである。



「うひひっ♡!!シリ穴ル、大歓げーいっ♡!!ひよほおっ♡!!」  
「ズルズル、ズポオッンツ♡!!極太ティルド使用ありがとうございまあゝすっ♡!!便女の身体なんて気にせず、どんどんズポズポして下さいませえっ♡!!」

「ほげっ♡!!おご、ほおおおっ♡!!ちんことディルドが中で擦れて……おひよおっ♡!?!」  
「ぶっひよおっ♡!?!やっべっ♡!!ケツとマンコ二穴攻めヤバすぎっ♡!!ぬこっ♡!!ほおおんっ♡!!」

響雌と言う名の獣の叫び。男達にも力が入る。



「んほおっ♡!!ちんちん力入ったあゝっ♡!!出しますかあっ♡!?!精子出しますかあっ♡!?!ほひいっ♡!!ど、どうぞお出してくださいっ♡!!」  
「いきいっ♡!!こちもくるうっ♡!!う、うれしーっ♡!!私の便女マンコで精子出してくれるんですねえっ♡!!おほおおゝんっ♡!!」



「んげえっ♥!!」  
「イグウっ♥!!」

ドツプリと、男達の精が放たれた。激しく、そして濃厚な精子が二人の子宮へと放たれ、犯す。子宮中へとそれが染みわたるのを感じとる。どこかの誰かもわからない、顔も知らない男のものを。



「イクウっ♥!!イギイッ、イギまずうっ♥!!ド  
ピュドピュ出されてひ〇ぎいっちちちうううう  
ううううんっ♥!!」  
「おおおおっ♥!!ほおおおっ♥!!子宮  
来たあっ♥!!あ、あぁんっ♥!!イグウっ♥!!  
マンコ、イグウウウウっ♥!!」

「ほ、おほお……っ♡」  
「ひよほっ……♡!!んっひひっ♡!!」

精子を出し切りちんこが抜かれると、二人の中へと注がれた多量の白濁液が溢れ出す。ディルドも抜かれるとパツクリと尻の穴が開いたままになった。



「ひ、ひっひい……っ♡」「ご利用して頂き、ありがとう」  
「さいマンコオっ♡えへへ……♡」  
「マンコ洗浄したらあ……直ぐにご利用できるのでえお次の方は、お待ちくださいさあ♡いっ♡」  
「せ、精子かき出すだけでいいなら、備え付けのゴム手袋で、ゴリュゴリュってかき出してね♡」

「本日もお……私達便女のマンコにアナル」

「いっぱい使ってくださいあゝいっ」





その後も延々と二人は、そしてここに居る他の  
彼女達は、男達に使われ続ける。  
壊れた日常を自覚する事も無く。  
異常が日常となった毎日を知る事も無く。  
ちんこを入れられれば感謝し、アナルで遊ばれ  
れば感謝をし、体中に卑猥な落書きをされても  
感謝する。



これからも、毎日生き続ける限り道具として使  
われ続ける。  
そして、それを彼女達は、望むのである。

——動画は、ここで終了です。彼女達は、今もあの場所です使われ続けています。興味があれば一度使われてみては如何でしょうか？  
尤もマシユーザーとなったアナタには、不要かもしれません。



今後このサイトは、問題なく利用する事が出来ず。自分が手に入れた物以外の「玩具」を見たい時は、ご利用ください。

またのご利用、お待ちしております。